

令和2年1月31日(金)

鳥羽商船高等専門学校の学生らが 第8回高校・高専気象観測機器コンテスト受賞

1月31日、鳥羽商船高等専門学校制御情報工学科の学生らが市長室を訪れ、令和元年12月23日に開催された一般財団法人WNI気象文化創造センターによる第8回高校・高専気象観測機器コンテスト本選で参加31チームの中から最優秀賞、優秀賞を同時受賞したことを報告しました。



最優秀賞を受賞した「ひやけ果 ORANGE（おらんじぇ）」は、9月中旬から下旬に収穫される極早生温州ミカンの2割ほどが日焼け果により出荷できずに廃棄されていることを受けて開発されたシステムです。このシステムは、現地の気温や湿度、土壌水分量に基づき、条件に応じて電磁弁を開閉することでスプリンクラーを自動散水し、ミカンの表面温度を下げて日焼け果を減らすことができます。チーム代表で4年生の川添大和さんは「初出場でしたが、経験者の岡本くんや村田くんの助けもあり受賞できたと思う。とてもうれしい」と受賞を喜びました。

また、優秀賞を受賞した「MIKAN（Majide li Kanjini Amaku Naru）」は、AIを用いたスマートフォンアプリで、ミカンの木の写真を撮影・送信するだけで、色や葉の形状からミカンの甘さの決め手となる水分ストレスを診断できるもので、水分ストレスの高さを高・低の二段階で測定できます。

中村市長は「地元としてもうれしいニュース」と話し、鳥羽商船高等専門学校の学生らのより一層の活躍に期待しました。